

令和8年7月28日

普及センターだより

すいりくばんけい

水陸萬頃 第26号

奥州農業改良普及センター TEL: 0197-35-6741 FAX: 0197-35-6303
いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



※水陸萬頃とは

「続日本書記」によると、胆江地域は「水と土地が豊かなところ＝水陸萬頃」と記されている。

岩手県農業農村指導士協会県南ブロック通常総会 及び現地研修会が開催されました！

6月30日、奥州市江刺において胆江・一関地方等の農業農村指導士11名、県南広域振興局農政部長ら関係機関18名が参加し、岩手県農業農村指導士協会県南ブロック通常総会及び現地研修会が開催されました。

総会後の指導士の近況報告では、今年の春の水稻育苗における細菌病の発生、夏場の高温対策や野生鳥獣による被害に関する意見が出されました。

現地研修会では、奥州市江刺の指導士、元指導士のほ場など3か所を訪問しました。

1か所目は、胆江地区の指導士会長の紺野啓氏の作業場を訪問し、農福連携や外国人研修生の活躍などについてお話を聞きました。

2か所目は、令和7年度、青年農業士に認定された高橋尚氏の作業場及びきゅうり栽培ハウスを訪問し、地域の若手きゅうり生産者との作業連携などについてお話を聞きました。

3か所目は、令和7年度、認定期間満了となった高橋光朗さんのハウスを訪問し、高温でもトマトの収穫量を減少させない方法などについてお話を聞き、3か所とも参加者が大いに刺激を受けた研修会となりました。

普及センターでは、今後も指導士の活動を支援するとともに、連携を強化しながら農業振興を推進して行きます。



通常総会の様子



現地研修（高橋尚氏）の様子

7～9月の作物ワンポイントアドバイス



水 稻〔出穂・登熟期の水管理〕

- ★出穂・開花期は、生育の速度が早く大量の水を必要とします。過乾燥は、穂の出すくみや開花・受精障害による不稔の発生を招くことがあるため、湛水管理（浅水でよい）を基本とします。
- ★登熟前半に高温（日中 30℃以上、夜間 23℃以上）が続く場合は、水の入替えをこまめに行うとともに、夜間かんがいを徹底しましょう。



大 豆〔難防除雑草対策〕

- ★帰化アサガオ類やアレチウリ等の難防除雑草が増加傾向にあります。つる性の難防除雑草は、つるが巻き付き始めると特に防除が難しくなりますので、早めに非選択性除草剤のスポット散布、あるいは手取り除草などを行いましょう。
- ★これら難防除雑草の種子の寿命は長く、水田に戻しても直ちに死滅しないものがほとんどのため種子をつける前の防除が重要です。



野 菜〔害虫・高温強日射対策〕

- ★アザミウマ類やアブラムシ類が多く見られます。ほ場をよく観察し、防除効果の高い発生初期のタイミングで薬剤散布を行いましょう。
- ★施設では、落花や結実不良、障害果の発生を抑えるため、遮熱・遮光資材と妻面開放などの換気を組み合わせた高温対策を行いましょう。また、葉の蒸散による気化熱で昇温抑制を図るため、健全な生育を確保と適切なかん水に努めましょう。



果 樹〔日焼け対策、適期収穫等〕

- ★日焼け対策として、過度な葉摘みは避け、新梢や被覆資材を利用しながら、果面の温度が急激に上昇しないよう努めましょう。
- ★収穫期に高温が続く場合は、着色を待ちすぎず、果肉の硬さを重視して収穫します。
- ★台風の接近が予想される場合、食味と散布した農薬の収穫前日数を確認し、収穫可能な果実は収穫を進めましょう。



花 き〔りんどうの高温期の薬害回避〕

- ★高温年は、害虫の発生量が多くなる傾向があります。高温期の農薬散布を避け、涼しい時間帯に葉裏や頂花周辺にたっぷりと散布し、散布ムラのないように留意しましょう。
- ★ウイルス症状が多く見られますので、収穫後のアブラムシ対策として花首除去を早めにいきましょう。



畜 産〔飲水量確保、遮熱、送風・換気、乾物摂取量の維持〕

- ★飲水量確保：清潔な水が十分飲めるよう、水槽やウォーターカップを掃除しましょう。
- ★遮 熱：牛舎内に直射日光が入らないように、寒冷紗などを設置しましょう。
- ★送風・換気：牛体に直接風が当たるよう、送風機の位置や制風板を調整します。また、夜間も換気扇を回し、空気を入れ替えて牛舎内の気温を下げます。
- ★乾物摂取量の維持：餌寄せや粗飼料の細断、夜間給餌等で乾物摂取量を維持しましょう。



身近に新規就農に興味のある方おられませんか

胆江地方農林業振興協議会では、胆江地方の主要品目で新たに農業を始めたい就農希望者に就農準備から就農後までの総合的な支援を行っています。（事務局 奥州農業改良普及センター）
現在就農を検討をしている方や、情報収集をしたい方へのお声がけをお願いします。



◇日程、時間等詳細は、別途ホームページ等に掲載します。

①就農相談窓口の日

内容 就農に向けた相談や情報収集したい方に対して関係機関の担当者がご相談に対応します。

時期 毎月第2木曜日（今年度は8月、2月は第1木曜日）
・事前の申し込みが必要になります。
・オンライン相談にも対応しています。



②新規就農事例・農作業体験研修

内容 先輩農家のほ場等に伺い、農作業を体験します。
時期 今年度はあと1回、10/1実施予定（ピーマン）

熱中症への対策

熱中症とは、高温多湿等の環境要因が一番影響しますが、睡眠不足や脱水等の体調、無理な作業や水分・食事量の不足といった状況が重なる事でリスクが増えます。

「農業現場では、中高年層も多いでしょうから、加齢による温度感覚の低下などによって脱水や暑さに気づかないまま、体調を崩してしまうというケースもあります」と熱中症に詳しい谷口医師※1は警鐘を鳴らしています。

熱中症の予防は、日頃から体調を整えておくこと。

特に睡眠不足は、自律神経のバランスを乱し、体温調節機能を低下させる原因になります。睡眠時間が6時間未満の人ほど熱中症関連症状が出やすい傾向があるという報告もあります。夜はエアコンを適切に使い、しっかり睡眠をとることが大切です。

また、夜間に失った水分を補給する役割もある朝食を抜かない事も重要です。

熱中症は正しい知識と対策によって予防できるので、対策への意識を高めておきましょう。



※1：谷口英喜先生 済生会横浜市東部病院患者支援センター長。医学博士。専門は麻酔学、集中治療学、脱水症等。脱水症に関する報道で多くのメディアに出演。著書に「熱中症からいのちを守る」（評言社）「アグリジャーナルvol40 2026SUMMER」から一部抜粋



奥州市、金ケ崎町内のクマ出没情報（4-6月）

奥州市・金ケ崎町・岩手県が提供している市民向けの公式スマートフォンアプリのクマ目撃等※1件数について、地域別にデータをまとめ※2しました。

奥州市・金ケ崎町における令和8年4月～6月までのクマ目撃等について、最も多いのは江刺、次に胆沢、金ケ崎町の順でした（図1参照）。

お出かけの際はクマ鈴を必ず持参してクマに自分の存在を知らせましょう。

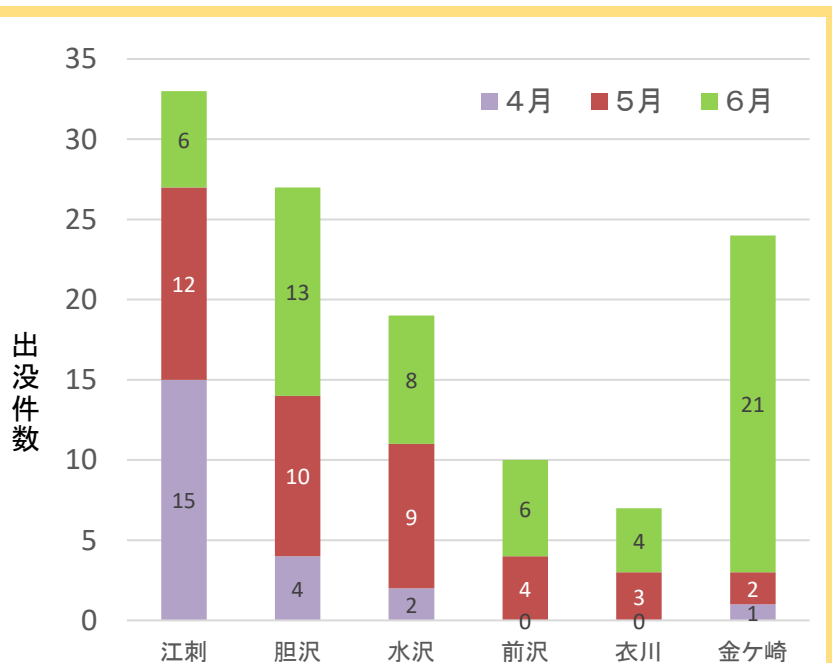


図1 地域別・月別クマ出没等件数

※1：出没内容は
目撃(成獣、幼獣)、
被害(肥料袋、牛の飼料等の食害)、
痕跡(爪痕、足跡、ふん)の3種類。

※2：3種類の公式スマートフォンアプリ
「ぽちっと奥州」、
「かねがさきInfo」、
「BEARS(ベアーズ)クマ
出没情報共有アプリ」を
示し、日時が同じ出没
情報は1件とカウント。

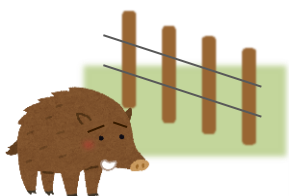


成獣のクマの爪

恒久電気柵の保守点検に係る現地研修会のお知らせ

県南地域鳥獣被害防止現地対策チームでは、恒久電気柵の現地研修会を開催します。参加希望の方は、8月20日（木）までに普及センターあてにFAX又はメールにて【氏名・組織名・電話番号】をご連絡願います。

- 日 時：令和8年9月2日(水)10～12時
- 会 場：伊手8区自治会館（奥州市江刺字伊手新山47）参加費無料
- 内 容：電気柵の効果が維持できる保守点検のポイント(仮)
講師：サージミヤワキ株式会社 菊池恭則 氏



お問合せ先 ➡ 奥州農業改良普及センター FAX：0197-35-6303

E mail：CE0018@pref.iwate.jp



所長の小噺（こばなし）



農業者並びに関係機関・団体の皆様には、日頃から地域農業の発展にご尽力いただき、感謝申し上げます。

奥州市・金ヶ崎町では、水稻を基幹としながら園芸や畜産を組み合わせた農業が展開されていますが、近年は夏季高温等の異常気象、担い手不足に加え、シカやイノシシ、クマなどによる農作物被害の増加が大きな課題となっています。

今年も夏季の高温が予想されており、水稻では白未熟粒の発生や品質低下が懸念されています。出穂後は間断かんがいを基本とし、落水時期を早めすぎないように注意するとともに、カメムシの多発が予想されますので、適期防除に努めるようお願いします。

また、畜産分野では、乳牛の乳量低下や繁殖成績の悪化、肉用牛の増体停滞など、暑熱ストレスによる影響が懸念されるため、畜舎内の換気扇や送風機を効果的に活用し、畜舎内の空気の流れを確保します。十分な飲水量を確保するため給水設備の点検や早朝・夕方の比較的涼しい時間帯の飼料給与などが暑熱ストレス軽減に有効です。

人の熱中症対策については、WBGT（暑さ指数、環境省の熱中症予防情報サイトで確認できます）の高い日は日中の作業を避け、早朝や夕方に作業時間を移す、30分ごとを目安に休憩を取る、水分をこまめに補給するとともに適量の塩分を摂取するなどの予防と空調服や冷却ベストの活用、単独作業を避けて互いに声を掛け合うことも対策となります。

また、鳥獣害対策では、「侵入を防ぐ」「寄せ付けない」「個体数管理」の三つの観点が基本です。「侵入を防ぐ」ために電気柵の適切な設置・維持管理を行うとともに、収穫残さや放任果樹を放置しない、やぶや雑木を整理するなど、「寄せ付けない」環境づくりに取り組むことが効果的です。普及センターでは、9月上旬、電気柵を効果的に長く使用するための「恒久電気柵の保守点検に係る現地研修会」を開催しますので、この機会に点検のポイントを確認していただければ幸いです。

結びに、普及センターでは、関係機関・団体と連携しながら、高温対策、鳥獣害対策、スマート農業の導入支援など、引き続き、現場の課題解決に向けた活動を進めてまいりますので、農業者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



田野島所長